Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Relationship between achievement of physical activity goal and characteristics of patients with rheumatoid arthritis

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 望月, 猛 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032097

主 論 文 の 要 旨

Relationship between achievement of physical activity goal and characteristics of patients with rheumatoid arthritis（関節リウマチ患者における身体的活動量の目標達成と患者背景の関連）

東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター
（指導：山中　寿教授）
望月　猛

Modern Rheumatology 電子版（平成 29 年 9 月 12 日発行）に掲載
DOI：10.1080/14397595.2017.1371104.

【要　旨】

関節リウマチ(RA)に対する治療目標のひとつは機能的寛解とされているが、実際に身体的活動が出来ているとは限らない。本研究の目的は RA 患者の身体活動量の目標を達成するための関連因子を同定することである。RA 患者 137 例を対象とした。平均年齢は 64.0 歳、平均罹病期間は 11.0 年であった。目的変数を身体活動量目標に対する達成の有無、説明変数を年齢、罹病期間、Body Mass Index (BMI)、患者 VAS、疼痛 VAS、CRP 値、血沈 1 時間値、MMP-3 値、Disease Activity Score 28、Health Assessment Questionnaire Disability index (HAQ-DI)とし、ロジスティック回帰分析にて身体的活動量目標達成の関連因子を検討した。身体的活動量目標を達成しえたのは 57 例(41.6%)であった。関連因子は年齢(P=0.001)、BMI(P=0.014)、疼痛 VAS(P=0.023)、HAQ-DI(P=0.043)であった。receiver operating characteristic 解析では HAQ-DI のカットオフ値は 0.3(感度 48.8%、特異度 89.5%、AUC 0.735)であった。治療目標である機能的寛解は HAQ-DI<0.5 であるが、本研究により身体的活動量の目標を達成するためには HAQ-DI は 0.3 以下であることが判明した。身体機能を維持するためにはより高い治療目標を目指す必要がある。